

令和7年度民間ネット調査報告書
男女共同参画に関する調査

大阪市

目 次

I. 調査の概要	1
調査の目的.....	1
調査の内容.....	1
調査設計.....	1
報告書を読む際の留意点.....	1
II. 調査結果の分析	2

I. 調査の概要

調査の目的

大阪市では、男女がともにその個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、大阪市男女共同参画推進条例に基づく「大阪市男女共同参画基本計画～第3次大阪市男女きらめき計画～」(令和3年度～令和7年度)に沿って、男女共同参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。

この調査は、今後本市が取り組むべき施策の参考とするため、男女共同参画に関する意識等についてお伺いするために実施しました。

調査の内容

男女共同参画について

調査設計

- (1) 調査対象：大阪市内に居住している18歳以上の大阪市住民
- (2) 標本数：500標本
- (3) 調査方法：インターネットを利用したウェブアンケート調査
- (4) 調査期間：令和8年1月22日～令和8年1月25日

報告書を読む際の留意点

- (1) 質問文・選択肢等
本文中の質問文及び選択肢などについて、長い文章については簡略化して用いる場合があります。
- (2) 数値結果
数値(%)は、各実数をもとに比率表示し、小数第2位を四捨五入しています。したがって、内訳の合計が全体の合計(100%)と一致しないことがあります。また、複数回答の質問については、該当者数を母数に比率表示しています。
- (3) 標本構成・調査結果
標本構成及び調査結果の詳細については、「令和7年度民間ネット調査結果(資料)」に掲載しています。

II. 調査結果の分析

Q 1

男女平等を基本として、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる社会を「男女共同参画社会」と言いますが、現状、あなたは社会全体で男女が平等であると思いますか。

1 男性の方が非常に優遇されている	5.6%
2 どちらかといえば男性の方が優遇されている	25.6%
3 平等である	18.0%
4 どちらかといえば女性の方が優遇されている	9.0%
5 女性の方が非常に優遇されている	4.8%
6 わからない	37.0%

【全体】

男性の方が優遇されていると答えた人の割合は「1 非常に」「2 どちらかといえば」を合わせて31.2%に対し、女性の方が優遇されていると答えた人の割合は「5 非常に」「4 どちらかといえば」を合せて13.8%となっています。

Q 2

あなたは、過去5年間で、社会全体が男女平等に向けてどう変化していると思いますか。

1 進んでいる	4.8%
2 少し進んでいる	28.8%
3 変わらない	30.6%
4 少し後退している	3.6%
5 後退している	5.2%
6 わからない	27.0%

【全体】

過去5年間で、社会全体が男女平等に向けてどう変化しているかについて、「1 進んでいる」「2 少し進んでいる」と答えた人の割合は合わせて33.6%となっています。

Q 3

あなたは、「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方についてどう思われますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 そう思う	3.2%
2 どちらかといえばそう思う	18.6%
3 どちらかといえばそう思わない	24.4%
4 そう思わない	29.0%
5 わからない	24.8%

【全体】

「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方について、「1 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は合わせて21.8%となっています。

Q 4

アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）は、自分でも気づかぬうちに思い込んでいる意識のことで、例えば、固定的な性別役割分担意識や性差に関するアンコンシャス・バイアスという、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「受付は女性が行うもの」のようなものです。あなたは、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）についてご存じですか。あてはまるものを1つ選択してください

1 ある程度内容を知っている	12.4%
2 聞いたことがある	24.8%
3 知らない	62.8%

【全体】

アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）について、「1 ある程度内容を知っている」「2 聞いたことがある」と答えた人の割合は合わせて37.2%となっています。

Q 5

あなたは、男性について、仕事と家庭生活の関係がどのようにあるのが望ましいと思いますか。あてはまるものを1つ選択してください

1 家庭生活よりも、仕事に専念する	4.6%
2 家庭生活にも携わるが、仕事を優先させる	23.8%
3 仕事と家庭生活を同じように両立させる	48.6%
4 仕事にも携わるが、家庭生活を優先させる	6.6%
5 仕事よりも、家庭生活に専念する	13.6%
6 その他	2.8%

【全体】

男性は、「1 家庭生活よりも、仕事に専念」「2 家庭生活にも携わるが、仕事を優先させる」方が望ましいと答えた人の割合は合わせて28.4%で、「3 両立させる」方が望ましいと答えた人の割合は48.6%、反対に「5 家庭生活に専念」「4 優先させる」ほうが望ましいと答えた人の割合は合わせて20.2%にとどまっています。

Q 6

あなたは、女性について、仕事と家庭生活の関係がどのようにあるのが望ましいと思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 家庭生活よりも、仕事に専念する	1.4%
2 家庭生活にも携わるが、仕事を優先させる	5.0%
3 仕事と家庭生活を同じように両立させる	51.8%
4 仕事にも携わるが、家庭生活を優先させる	26.4%
5 仕事よりも、家庭生活に専念する	12.8%
6 その他	2.6%

【全体】

女性は、「5 仕事よりも家庭生活に専念」「4 仕事にも携わるが家庭生活を優先させる」方が望ましいと答えた人の割合は合わせて39.2%で、「3 両立させる」方が望ましいと答えた人の割合は51.8%、反対に「1 仕事に専念」「2 優先させる」ほうが望ましいと答えた人の割合は合わせて6.4%にとどまっています。

Q 7

あなたは、平日において1日のうちに家事にどの程度の時間を費やしていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 家事はしない（0分）	10.8%
2 約1～30分未満	17.2%
3 約30分～1時間未満	21.2%
4 約1～2時間未満	20.8%
5 約2～3時間未満	15.8%
6 約3～4時間未満	6.8%
7 約4～5時間未満	3.4%
8 約5～6時間未満	1.6%
9 約6～7時間未満	1.4%
10 約7～8時間未満	0.4%
11 8時間以上	0.6%

【全体】

家事に費やす時間は「3 約30分～1時間未満」と答えた人の割合が21.2%と最も高く、次いで「4 約1～2時間未満」が20.8%、「2 約1～30分未満」が17.2%と続いています。

Q 8

パートナー（または家族等）がいる方にお聞きします。あなたのパートナー（または家族等）は、平日において1日のうちに家事にどの程度の時間を費やしていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 家事はしない（0分）	9.6%
2 約1～30分未満	13.0%
3 約30分～1時間未満	8.8%
4 約1～2時間未満	10.8%
5 約2～3時間未満	11.2%
6 約3～4時間未満	3.4%
7 約4～5時間未満	2.4%
8 約5～6時間未満	1.4%
9 約6～7時間未満	0.6%
10 約7～8時間未満	0.2%
11 8時間以上	1.0%
12 パートナー（または家族等）がいない	37.6%

【全体】

パートナー（または家族等）が平日において家事に費やす時間は「2 約1～30分未満」と答えた人の割合が13.0%と最も高く、次いで「5 約2～3時間未満」が11.2%、「4 約1～2時間未満」が10.8%と続いています。

Q 9

(問8で1～11と答えた方のみ)

あなたは、あなたのパートナー（または家族等）との家事の分担についてどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 満足している	21.8%
2 ある程度満足している	55.1%
3 やや不満である	14.1%
4 不満である	9.0%

【全体】

パートナー（または家族等）との家事の分担について、「1 満足している」の割合は21.8%、「2 ある程度満足している」の割合は55.1%で、「3 やや不満である」の割合は14.1%、「4 不満である」の割合は9.0%となっています。

Q10

あなたは、平日において1日のうちに育児にどの程度の時間を費やしていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 育児はしない（0分）	9.8%
2 約1～30分未満	3.2%
3 約30分～1時間未満	2.4%
4 約1～2時間未満	5.0%
5 約2～3時間未満	3.2%
6 約3～4時間未満	1.4%
7 約4～5時間未満	1.4%
8 約5～6時間未満	0.8%
9 約6～7時間未満	0.4%
10 約7～8時間未満	0.0%
11 8時間以上	1.4%
12 育児の対象者がいない	71.0%

【全体】

育児を行う必要がある人のうち、育児に費やす時間は「1 育児はしない（0分）」の割合が9.8%と最も高く、次いで「4 約1～2時間未満」と答えた人の割合が5.0%と続いています。

Q11

(問8で1～11(パートナーがいる)かつ、問10で1～11(育児対象者がいる)と答えた方のみ)

あなたのパートナー(または家族等)は、平日において1日のうちに育児にどの程度の時間を費やしていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 育児はしない(0分)	36.0%
2 約1～30分未満	13.2%
3 約30分～1時間未満	6.6%
4 約1～2時間未満	11.0%
5 約2～3時間未満	11.8%
6 約3～4時間未満	8.8%
7 約4～5時間未満	5.1%
8 約5～6時間未満	2.9%
9 約6～7時間未満	0.7%
10 約7～8時間未満	0.0%
11 8時間以上	3.7%

【全体】

育児を行う必要がある人のうち、パートナー(または家族等)が育児に費やす時間は「1 育児はしない(0分)」の割合が36.0%と最も高く、次いで「2 約1～30分未満」の13.2%と続いています。

Q12

(問8で1～11(パートナーがいる)かつ、問10で1～11(育児対象者がいる)と答えた方のみ)

あなたは、あなたのパートナー(または家族等)との育児の分担についてどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 満足している	24.3%
2 ある程度満足している	52.2%
3 やや不満である	15.4%
4 不満である	8.1%

【全体】

パートナー(または家族等)との育児の分担について、「1 満足している」の割合は24.3%、「2 ある程度満足している」の割合は52.2%で、「3 やや不満である」の割合は15.4%、「4 不満である」の割合は8.1%となっています。

Q13

現在、就業している方にお伺いします。あなたが職場でハラスメントを受けた場合に考えられる行動について、あてはまるものをすべて選択してください。

1 職場のハラスメント窓口相談する	18.0%
2 上司や同僚など職場の人に相談する	22.6%
3 家族や友人など職場以外の人に相談する	23.8%
4 誰にも相談しない	17.6%
5 その他	1.2%
6 就業していない	33.2%

【全体】

職場でハラスメントを受けた場合に考えられる行動について、「3 家族や友人など職場以外の人に相談する」と答えた人の割合が最も高く23.8%となっており、次いで「2 上司や同僚など職場の人に相談する」と答えた人の割合が22.6%と続いています。

Q14

(問13で2～5と答えた方のみ)

職場のハラスメント窓口を利用しない理由について、あてはまるものをすべて選択してください。

1 ハラスメント相談窓口の存在を知らない	33.6%
2 相談窓口の利用方法がわからない	15.2%
3 相談窓口が信用できない	18.0%
4 相談窓口を利用しても解決しないと思う	41.8%
5 その他	6.1%

【全体】

「4 相談窓口を利用しても解決しないと思う」と答えた人の割合が最も高く41.8%となっており、次いで「1 ハラスメント相談窓口の存在を知らない」と答えた人の割合が33.6%と続いています。

Q15

地域活動(町会、自治会、PTA、ボランティアなど地域の活動)についてお尋ねします。あなたは、地域活動等に参加したことがありますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 現在、参加している	8.0%
2 現在、参加していないが、過去に参加したことがある	19.4%
3 今まで参加したことはない	72.6%

【全体】

地域活動に「1 現在、参加している」割合は8.0%、「2 現在は参加していないが、過去に参加したことがある」の19.4%を合わせても27.4%にとどまり、7割近くの方が地域活動への参加を経験していません。

Q16

(問15で1～2と答えた方のみ)

あなたは、地域活動において女性の参画が進み、その個性と能力が十分に発揮できていると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 そう思う	8.0%
2 どちらかといえばそう思う	46.7%
3 どちらかといえばそう思わない	38.7%
4 そう思わない	6.6%

【全体】

地域活動において女性の参画が進んでいるかについて、「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」の割合は54.7%、「3 どちらかといえばそう思わない」または「4 そう思わない」の割合は45.3%となっています。

Q17

(問15で1～2と答えた方のみ)

あなたは、地域活動等における女性の参画の障害になると思うものは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1 現時点では、必要とされる知識や経験などを持つ女性が少ないこと	16.8%
2 女性自身が参画を希望しないこと	35.0%
3 女性が参画することを男性が希望しないこと	19.0%
4 参画するのは男性中心、などの地域のしきたりや慣習が残っていること	25.5%
5 女性の家事・育児・介護などの負担が大きいこと	50.4%
6 その他	2.2%

【全体】

地域活動の中で中心的な役割を担う女性を増やすときに障害になると思うものについて、「5 女性の家事・育児・介護などの負担が大きいこと」が50.4%となっています。

Q18

大阪市は、男性と女性がともに、仕事や家庭、地域での活動に参画し、その個性と能力を十分に発揮できるまちだと感じますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 とても感じる	3.8%
2 少し感じる	16.2%
3 あまり感じない	33.0%
4 全く感じない	8.6%
5 わからない	38.4%

【全体】

感じると思えた人の割合は「1 とても」「2 少し」を合わせて20.0%なのに対して、感じないと答えた人の割合は「3 あまり」「4 全く」を合わせて41.6%となっており、感じないと答えた人の割合が高くなっています。

Q19

あなたは、大阪市において、女性の活躍推進に積極的に取り組む企業等を「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」として認証していることを知っていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 よく知っている	2.2%
2 ある程度知っている	9.2%
3 聞いたことがある	13.6%
4 知らない	75.0%

【全体】

知っていると答えた人の割合は「1 よく」と「2 ある程度」を合わせ11.4%となっています。

Q20

あなたは、「女性の悩み相談」の窓口がクレオ大阪中央にあることをご存知ですか。

1 よく知っている	3.2%
2 ある程度知っている	7.8%
3 聞いたことがある	14.0%
4 知らない	75.0%

【全体】

「4 知らない」と答えた人の割合が75.0%と7割近くとなっています。

Q21

「女性の悩み相談」の窓口をどこでお知りになりましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1 クレオ大阪に来館した際	18.4%
2 大阪市のホームページ	42.4%
3 大阪市のLINE	12.8%
4 大阪市民局のフェイスブック	3.2%
5 クレオ大阪のホームページ	14.4%
6 市役所、区役所のポスター、チラシ	28.8%
7 地下鉄駅のポスター、チラシ	6.4%
8 男女共同参画情報誌「クレオ」	8.0%
9 その他	5.6%

【全体】

「2 大阪市のホームページ」と答えた人の割合が最も高く42.4%となっており、次いで「6 市役所、区役所のポスター、チラシ」と答えた人の割合が28.8%と続いています。

Q22

「女性の悩み相談」の窓口について、必要な事業だと思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 とても必要な事業である	12.6%
2 必要な事業である	33.0%
3 ある程度必要な事業である	32.0%
4 必要とは思わない	22.4%

【全体】

「女性の悩み相談」を「4 必要とは思わない」割合は22.4%にとどまり、程度の違いはありますが、77.6%が必要であると思っています。

Q23

あなたは、「男性の悩み相談」の窓口がクレオ大阪子育て館にあることをご存知ですか。

1 よく知っている	1.6%
2 ある程度知っている	7.0%
3 聞いたことがある	8.0%
4 知らない	83.4%

【全体】

「4 知らない」と答えた人の割合が83.4%となっています。

Q24

「男性の悩み相談」の窓口をどこでお知りになりましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1 クレオ大阪に来館した際	22.9%
2 大阪市のホームページ	39.8%
3 大阪市のLINE	21.7%
4 大阪市市民局のフェイスブック	12.0%
5 クレオ大阪のホームページ	10.8%
6 市役所、区役所のポスター、チラシ	20.5%
7 地下鉄駅のポスター、チラシ	12.0%
8 男女共同参画情報誌「クレオ」	8.4%
9 その他	3.6%

【全体】

「2 大阪市のホームページ」と答えた人の割合が最も高く39.8%となっており、次いで「3 大阪市のLINE」と答えた人の割合が21.7%と続いています。

Q25

「男性の悩み相談」の窓口について、必要な事業だと思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1 とても必要な事業である	11.4%
2 必要な事業である	29.0%
3 ある程度必要な事業である	35.4%
4 必要とは思わない	24.2%

【全体】

「男性の悩み相談」を「4 必要とは思わない」割合は24.2%にとどまり、程度の違いはありますが、75.8%が必要であると思っています。

Q26

あなたが暴力としてご存じのものを、すべて選択してください。

1 身体的暴力（なぐる・ける など）	73.6%
2 精神的暴力（無視する、暴言を吐く、ばかにする、家族に危害を加えるといっておどす など）	74.2%
3 性的暴力（嫌がっているのに性的な行為を強要する など）	71.6%
4 社会的暴力（行動や付き合いを制限する、SNSなどをチェックする など）	57.2%
5 経済的暴力（自由にお金を使わせない、生活費を渡さない など）	58.8%
6 知らない	20.4%

【全体】

暴力の種類として「社会的暴力（行動や付き合いを制限する、SNSなどをチェックする など）」の認知度が最も低く、57.2%となっています。

Q27

あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口があることを知っていますか。

1 知っている	28.2%
2 知らない	71.8%

【全体】

配偶者等からの暴力について相談できる窓口について、「2 知らない」と答えた人が71.8%と7割近くとなりました。

Q28

配偶者等からの暴力にかかる相談機関・対応窓口としてご存じのものを、すべて選択してください。

1 大阪市配偶者暴力相談支援センター	7.6%
2 各区保健福祉センター	15.4%
3 大阪府女性相談センター	10.0%
4 警察署、交番	46.6%
5 シェルターなどの民間の相談機関	19.8%
6 知らない	45.4%

【全体】

配偶者・パートナーの間での暴力にかかる相談機関・対応窓口として、「4 警察署、交番」と答えた割合は46.6%となっている一方、「1 大阪市配偶者暴力相談支援センター」と答えた人は7.6%にとどまっています。

Q29-1

仮に自身が配偶者等からの暴力被害を受けた場合、誰かに相談すると思いますか。

1 思う	37.0%
2 思わない	14.2%
3 分からない	48.8%

【全体】

仮に自身が配偶者等からの暴力被害を受けた場合、誰かに相談すると「1 思う」と答えた人は37.0%、「2 思わない」と答えた人は14.2%となっています。

Q29-2

Q29-1で「思わない」を選んだ方にお伺いします。相談しないと思う理由を教えてください。

1 相談するほどでもないと思うから	26.8%
2 相談しても無駄だと思うから	29.6%
3 誰に相談していいかわからないから	15.5%
4 自分さえ我慢すれば大丈夫と思うから	14.1%
5 自分にも悪いところがあると思うから	19.7%
6 相手の仕返しが怖いから	16.9%
7 他人に知られたくないと思うから	19.7%
8 相手の行為は愛情表現だと思うから	1.4%
9 その他	7.0%

【全体】

「2 相談しても無駄だと思うから」と答えた人の割合が最も高く29.6%となっており、次いで「1 相談するほどでもないと思うから」と答えた人の割合が26.8%と続いています。

Q30

あなたが普段よく利用されているSNSを教えてください。

1 F a c e b o o k	13.0%
2 X (旧T w i t t e r)	36.0%
3 I n s t a g r a m	36.4%
4 T i k T o k	19.0%
5 L I N E (公式アカウント)	43.4%
6 T h r e a d s	5.6%
7 Y o u T u b e	46.6%
8 その他	0.2%
9 SNSを利用していない	25.4%

【全体】

「7 Y o u T u b e」と答えた人の割合が最も高く46.6%となっており、次いで「5 L I N E (公式アカウント)」と答えた人の割合が43.4%と続いています。